

日々 往来

河本 勝也



日本銀行で
は、今年1月
24日に政策金
利を0・5%
に引き上げま

した。皆さまはこのニュースを
目にされて、どのようにお感じ
になられたでしょうか。

お金を借りて、事業を営まれ
たり、自宅を購入されたりして
いる方は、金利負担が増えて困
るとお感じになられたのかも知
りません。一方で、金融機関に
お金を預けている方は、預金利
息が増えると喜ばれたのかも知
りません。お金には貸し手(預

金利について考える

け手)と借り手の両方が存在し、直接的に観察することができま
金利の変化で得をしたと感ずる
せん。日本銀行でもさまざま
方もいれば、損をしたと感ずる
手法を用いて推計しています
方もいます。が、推計値にかなりのばらつき

日本銀行は物価の安定を目的
として、金融政策、すなわち金
利の操作を行っています。こ
れは物価の安定が経済の持続的
な成長の基礎となるとの考えに
基づくものです。金融政策を通
じて、物価の安定を達成し、経
済成長、具体的には企業収益や
賃金の増加が実現すれば、(金
利の変化による損得に限らず)
見通しが実現していくとすれ
ば、それに応じて引き続き政策
金利を引き上げていく考えで
て頂けるものと思います。

では、物価の安定が達成され
る金利とは具体的にどのような
水準なのでしょう。経済や物
価に対して緩和的でも引き締め
る見通しが実現する確度を随時
的でもない金利水準を意味する
概念として「中立金利」があり
ますが、中立金利は金融市場で
取引されているものではなく、
(日本銀行鳥取事務所長)